

令和3年度小松市立栗津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	児童が「自ら進んで」活動する学校づくりを推進する。	<p>クラブ活動は、主体的・意欲的に計画を立てたり、内容を考えたりすることができていた。</p> <p>委員会では、創造的活動が少なかった。コロナで活動が制限されるので、教師は、任せられるところは思い切って児童に任せ、成功不成功にかかわらず、それを「経験」として体験させることが必要。</p>	<p>「栗津っ子は一生懸命」を合言葉に、積極的に自分ができることを精いっぱいやる、ということを実践してきたところ、低・中学年を中心にとっても意欲的に活動に参加している様子が見られた。高学年は個人差が見られた。</p> <p>全体が進んで活動する姿に持つていくために、大きな行事を利用するなど一生懸命したくなる場の設定の工夫が必要である。</p> <p>次年度は児童会運営委員会を中心に高学年児童が主体的に計画から関わるよう働きかけていく。</p>
	<p>・児童へのアンケート結果を元に担任と児童で話し合い、各学年で年間の重点目標を決定し、取り組む。</p> <p>・7月・12月の意識調査をもとに取組を改善し、成果を共有してより効果的・効率的な取組とする。</p> <p>・児童会と連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて取組を考え、共に実践していく。</p>		
特別支援教育	児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。	<p>学校全体が落ち着き、授業中に応援しに行くことがなくなった。</p> <p>教育的配慮をともなう人員が考慮されことで落ち着きを取り戻すことができた。</p> <p>これからも家庭との連携を大切にしていきたい。</p> <p>落ち着いた学校を保つことができるようにしたい。また、1部の教員に負担がかかりすぎないように、職員全員で関わっていきたい。</p>	<p>職員終礼等で、こまめな情報交換を行い、迅速かつ適切な対応をすることができた。支援員や心の相談員をはじめ、スクールカウンセラー等にも情報を伝え、計画的な配置を行うことで支援の効果が上がった。</p> <p>支援の内容をより具体的に、細かく共有できるとよい。外部の方の意見も参考に児童のプロフィールを一覧にし、対応について共有できるようにしていく。</p>
	<p>・気づき票を通し、特別な配慮を要する児童の課題を把握し、適切な支援を行う。</p> <p>・組織的な特別支援教育を推進のため、現状を把握、評価した上で、効果的だった支援方法などを共有し、継続した支援が行えるよう校内支援体制の充実を図る。</p>		
道徳教育	日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。	<p>道徳ノートにふり返りを書くことで、生活の中での道徳的な価値に近づくことができています。</p> <p>道徳ノートに書いた自分の思いが、時間的に書くだけで終わってしまい、学級全体で共有するまでに至っていないことがある。タイムマネジメント、児童の気持ちや思いを記述する力がつくるとよい。</p>	<p>道徳ノートの活用が進んだ。特に、児童のふり返りが充実してきた。</p> <p>より価値にせまる内容でふり返りができるように、意識して授業を組み立てていく必要がある。</p> <p>道徳教育推進教師を中心に、短時間OJT等を利用して、授業づくりの研修の機会を作っていく。</p>
	<p>・深い学びにつながる授業展開を行い、必要に応じて公開研修会で研鑽を図る。</p> <p>・授業の振り返りを道徳ノートに残し、自身の変容を実感できるようにする。</p> <p>・道徳科での学びを生かしている場面を評価し、児童が学びを実感できるようにする。</p>		
保健教育	健康な生活づくりを推進する。	<p>家庭でのメディアの使い方(時間だけではなく、使用場所など)のルールを児童会と連携し全校に呼びかけるなどして家庭へ啓発していけると良い。</p> <p>にこにこ生活プロジェクトに関してほとんどの児童がめあてを達成していた。自分に合ったコースを選べる児童が増えた。</p> <p>上のコースを選択し、達成できる子を増やす。</p>	<p>児童の意識が高くなり、マスクの着用は徹底できてきた。これまでの感染対策を継続して行うようにしていきたい。手洗いの励行はさらに呼びかけていきたい。</p> <p>にこにこ生活プロジェクトでは自分のめあてを達成できた児童が80%に満たなかった。73%という結果は難しいコースに挑戦しようとする意欲の表れでもあるが自分の生活を客観的に理解できるように働きかけていく必要がある。</p>
	<p>・感染症対策について理解を深め、児童自ら自分の健康を守る行動ができるようにする。</p> <p>・にこにこ生活プロジェクトを実施して、メディアとの関わり方(自分を大事にするメディアコントロール)を考え、よりよい生活習慣を心がけられるようにする。</p>		
情報教育	GIGAスクール構想を推進する	<p>タブレットを使うことが、苦手な教員でも、気軽に話すことで、活用が進んでいる。特に、教員主体で可視化機能を活用することができている。児童も、意欲的に使っている。</p> <p>子ども主体の使い方がまだできていない。どのように活用しているかの共有化やICTインストラクターの方の研修で、さらに使い慣れていく。</p>	<p>教員はタブレットを活用する機会が増えた。また、研究授業でも意識して使用する時間を公開し、効果的な使用方法について共有することができた。</p> <p>朝自習のタイピングなどを含め、子どもが使う機会を増やしていく。教室においておいて、休み時間に使うなど児童が自分で選んで使うということも条件が整えば進めていく。</p>
	<p>・タブレット端末の具体的な使い方や活用方法を提案していく。</p> <p>・推進リーダーを中心に研修を行う。放課後等での短時間研修を年6回行う。</p>		
学校関係者評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、評議員の皆様にも、学校の様子を参観いただいたり、お集まりいただいて話し合っていたりする機会を持つことはできなかったが、折に触れて電話で学校の状況を報告したり、ご助言をいただいたりした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大が進む中でも、工夫しながら行事を中止せずに行ってきた点は評価いただいた。また、日頃の様子から、地域でのあいさつが増えたことやそれに伴って落ち着きが見えてきたこともお知らせいただいた。2月に開催された木場潟環境フォーラムで3、4年生が発表したことについても、年間を通して継続して学習している点やその成果を地域に発表してくれることで、地域住人から認められる機会が増えていることも評価いただいた。</p>		